

監修

新
村
岸
出
平

高木市之助
小島吉雄

久松
法

一

榮
花
物
語

三

松村博司校註

日朝
日本日
古新聞
全社
書刊

日本古典全書

「榮花物語」三 松村博司校註

昭和三十三年四月五日初版發行

昭和四十一年三月三十日第三版發行

印刷所 株式會社精興社

發行所 朝日新聞社（東京都千代田

區有樂町・大阪市北區中之島・

北九州市小倉區砂津・名古屋市

中區廣小路）

定價 四八〇圓

松村博司（まつむらひろじ）

明治四十二年靜岡縣生。昭和八年
東京大學國文學科卒業。名古屋大
學教授。昭和三十三年日本學士院
賞。主著—榮花物語の研究（正・
續篇）、日本古典文學大系・大鏡、
日本古典全書・榮花物語（一・四）、
歴史物語、服部首雄傳の研究等。

目 次

本卷所收各卷解說

凡例

三

本文

二

音樂

三

翁と老法師の歌

三

法成寺御堂供養の準備(治安二年)

三

同 試樂

三

三后の行啓

三

女房達の裝束

三

關白左大臣(賴通)以下の有様

三

後一條天皇の行幸

三

東宮行啓

三

宮々に饗饌を奉る

三

御堂庭前の有様

三

御堂扉の繪

四〇

金堂の諸佛

四

堂内の莊嚴

四

諸僧參會

四

舞樂の有様

四

供養の有様

四

供養後の祿、行賞

四

法成寺の夜の有様

四

三后的諸堂御見物

四

阿彌陀堂盂蘭盆會

五

御堂の遊宴

五

三后還御

五

玉の臺

西

尼達の御堂參詣(治安二年).....西

花の尼の事.....西

阿彌陀堂の屏繪.....西

西

同 念誦の間と修行の間.....西

空

阿彌陀如來の相好.....毛

古

黄昏の御念佛.....毛

古

御堂の夜景.....毛

古

尼達の會話と和歌.....毛

古

三味堂參詣.....空

古

阿彌陀堂懺法.....空

古

禎子内親王御裳著(治安三年).....空

古

同 女房達の服裝.....空

古

同 土御門殿の莊飾.....空

古

皇太后姫子と禎子内親王の行啓.....空

古

御裳著の次第.....空

古

同腰結太皇太后宮彰子へ贈物.....毛

古

同髪上の典侍へ贈物.....毛

古

禎子内親王御裳著(治安三年).....空

古

同 女房達の服裝.....空

古

同 土御門殿の莊飾.....空

古

皇太后姫子と禎子内親王の行啓.....空

古

御裳著の次第.....空

古

同腰結太皇太后宮彰子へ贈物.....毛

古

同髪上の典侍へ贈物.....毛

古

禎子内親王御裳著(治安三年).....空

古

七

圓教寺・法興院の御八講.....空

古

花の尼の事.....西

尼、里人を案内して諸堂巡廻.....西

空

藥師堂造營工事.....西

古

倫子御賀と禎子内親王御裳著の準備.....西

古

治安三年.....西

古

朝覲行幸.....西

古

長家任中納言.....西

古

大納言齊信の棧敷殿燒「」.....西

古

大納言公任長谷詣.....西

古

同乳母等の加階.....西

古

又の日の儀式.....西

古

御堂萬燈會.....西

古

賀茂祭.....西

古

太皇太后宮田植御覽.....西

古

道長逆修を行ふ.....西

古

此为试读,需要完整PDF请访问: www.ertongbook.com

道長の宇治御八講	一一一
土御門殿歌會	一一二
御賀	一一三

土御門殿の有様(治安三年)·····

同 舞樂·····

九四

皇太后妍子土御門殿に行啓·····

九五

中宮威子土御門殿に行啓·····

九六

三后・女御嬉子・倫子等の女房の服裝·····

九七

土御門殿の庭·····

九八

倫子六十の御賀の盛儀·····

九九

後悔の大將

葬送·····

一〇三

教通の室懷妊、三條殿に遷る·····

一〇四

同 男子平產(治安三年)·····

一〇五

萬壽元年·····

一〇六

三條殿正月の有様、教通の室病惱·····

一〇七

同 物の怪の有様·····

一〇八

教通室逝去·····

一〇九

人々の悲歎·····

一一〇

教通室の靈の事·····

一一一

鳥の舞

二九

法成寺薬師堂建立(萬壽元年)·····二九

薬師佛遷座の有様·····二九

賀茂祭·····二三

駒競の行幸

三六

高陽院の庭園と馬場(萬壽元年)·····二八

太皇太后(彰子)駒競により行啓·····三九

後一條天皇行幸·····一九

東宮行啓、駒競·····一九

後宴、慶滋爲政の和歌序、和歌·····三三

太皇太后宮御逗留·····三五

若ばえ

一四一

萬壽二年正月·····一四

臨時客、大饗·····一四

頼通の妾對の君、男子を産む·····一四

枇杷殿(妍子)大饗·····一四

女房の準備·····一四

祇陀林寺舍利會·····三四

法成寺三十講·····三五

藥師堂供養と堂内の諸佛·····三六

賴通、子なきを歎く·····三七

中宮(威子)多寶塔供養·····三八

五節·····四〇

道長、長谷寺參籠·····四一

道長の萬燈會·····四〇

教通の室一周忌法會·····四一

上達部參入·····四八

關白(賴通)・右大臣(實資)參入·····四八

女房の出衣·····一九

舞樂·····一五

小野の宮實資、女房の衣裳批評·····一五

辨の乳母の姪、裳著	一五	中務の宮敦平親王、兼隆女と結婚	一毛
大饗御遊	一五	皇后宮(城子)御惱	一毛
賴通、女房の華奢を皇太后に啓す	一五	太皇太后宮(彰子)御八講	一毛
道長女房の華奢を聞き、賴通を勘當	一五	皇后宮御物の怪	一毛
四條の宮焼亡	一五	尙侍(嬉子)御懷妊	一毛
通房、道長邸に遷る	一五		
嶺の月	一九		

皇后宮(城子)御惱危篤	一九	道長、院の女御見舞	一九
同 崩御、入棺	一九	院の女御(寛子)御惱危篤	一七
同 葬送	一九	堀河顯光父子の物の怪出現	一七
小一條院、土殿に入り給ふ	一九	院の女御薨去	一七
四十九日御法事	一九	同 葬送	一七
小一條院女御(寛子)御惱	一九	小一條院の悲歎	一七
關寺の牛佛	一九	高松殿(明子)の悲歎	一七
女御(寛子)御惱御修法	一九	相撲節停止	一六
道長の病惱	一九	道長の 小一條院に對する厚意	一六
尚侍(嬉子)御産の御祈り	一六	敦貞親王乳母逝去	一七
東宮、土御門殿に行啓	一六	敦昌親王、醍醐座主の許に入室	一七
赤もがさの流行	一七	小一條院の御歌	一七

目 次

故院の女御(寛子)の法事……………一七
尚侍(嬉子)赤もがさ罹患……………一九
同 物の怪に悩み給ふ……………二〇
楚王の夢……………二一

長家室赤もがさを病む……………一九
尚侍(嬉子)御産氣……………二九
同 顯光父子の物の怪出現……………二八三
法興院に殯す……………一七
供奉の有様……………一七
小一條院女御(寛子)・冷泉院女御(超
子)の例……………一七
大宮・東宮の悲歎……………一七
尚侍の女房、若宮の御方に奉仕……………一七
道長無常を観じて山に入らんとす……………一七
尚侍菩提のため山々寺々の僧に湯をあむ
さす……………一七
道長と小式部の乳母の贈答歌……………一九
尚侍送葬……………一九
小左衛門の葬送……………一〇三
倫子・東宮の有様……………一〇四
尚侍の御遺骨を木幡に葬る……………一〇四

尚侍(嬉子)御産、後冷泉院誕生(萬壽一
年)……………一七
大宮彰子、御產所より寢殿に還啓……………一七
東宮御剣を贈り給ふ……………一七
御湯殿の儀……………一七
賴通産養の準備……………一七
尚侍(嬉子)御惱とその前後……………一七
物の怪出現……………一七
薨去……………一七
道長・倫子・賴通以下の悲歎……………一七
御遺骸の有様……………一七
女房の悲歎……………一七
葬送の事を定む……………一五
若宮を渡殿に遷し奉る……………一五
御入棺……………一五

院源、道長の悲歎をいさむ	104
若宮の御乳母	105
小左衛門の母、左衛門の内侍に物を賜ふ	106
小一條院女御(寛子)の法事の準備	106
小一條院と殿ばらの世語り	106

衣の珠

長家室病惱(萬壽二年)	三四
同 御祈禱・造佛・讀經	三五
同 死胎を産む	三六
同 逝去	三七
齊信夫妻の悲歎	三八
葬送の事を定む	三九
長家の悲歎	四〇
法住寺に殯す	四一
忌中の有様	四二
長家・進の内侍・小辨等贈答歌	四三
長家室の思ひ出	四三
長家懷舊の歌	四三
故尙侍(嬉子)の法事	四三

道長、小一條院へ消息を送る	一一一
道長、長家の室赤もがさにより齊信へ消息を送る	一一一
同 齊信の返事	一一一
道長・院源贈答歌	三四
正日	三四
若宮(後冷泉)御五十日	三四
長家室葬送	三四
齊信の悲歎	三四
法事の準備	三六
長家・母北の方等の歌	三六
左兵衛の督公信の病氣	三七
長家室法事	三七
五節	三八
小式部内侍、産後に逝去	三八
和泉式部の歌	三八
右頭中將顯基室逝去	三九

四條大納言公任出家を發意	二〇	左兵衛の督公信室の逝去	二六
女御誕子と贈答歌	二〇	禪子内親王(三條院皇女)、内大臣敦通と 二條殿において人々に對面	二九
四條殿において女御に對面	二四	禪子内親王、小二條殿に渡り給ふ	二九
長谷に籠居	二五	皇太后宮(姫子)御八講の準備	二九
萬壽三年	二五	左兵衛の督公信薨去	二五
定頼長谷に赴き父に對面	二六	枇杷殿御八講	二五
公任雑髮	二七	同 五卷の日の有様	二五
道長・公任贈答歌	二七	公信の葬送、法事	二七
教通・定頼等公任を長谷に訪る	二七	中納言長家、齊信邸に滞留	二七
女御・定頼等と公任の贈答歌	二八	後一條天皇の御惱	二七
齊信、公任を長谷に訪る	二九	小一條院女御(寛子)・尙侍(嬉子)一周忌 の法事	二七
公任・御匣殿(生子)贈答歌	二九	女院(彰子)・東宮、若宮を愛し給ふ	二九
太皇太后宮(彰子)御出家の準備	二九	御匣殿(生子)裳著・入内等の世評	二九
女房等出家	二九	長家室一周忌の法事	二九
太皇太后宮御出家、上東門院と稱號す	二九	中宮(威子)、左衛門の督兼隆の東院邸に 同 院司の補任	二九
同 院司の補任	二九	退出せらる	二九
皇太后宮妍子の御歌	二九		
齋院(選子)御歌と道長の返歌	二九		
法成寺戒壇造營の準備	二九		

若

水

二五八

中宮(威子)左衛門の督兼隆邸に退出し給
ふ(萬壽三年).....

風説.....
同御定り.....
女房を召集む.....
云

同 御產御祈り.....
同 御產(章子内親王御誕生).....
同 御產養.....

云
云
云
云

萬壽四年.....
章子内親王、若水にて御湯を使はる.....
枇杷殿臨時客.....
信長の有様.....

云
云
云
云

一品の宮女房どもの準備.....
東宮(後朱雀)の御使、枇杷殿に參上.....
賴通御參りの事を沙汰す.....
弘徽殿の室禮.....

云
云
云
云

京極大炊御門邊の大火・法興院焼亡.....
朝覲行幸.....
若宮(章子)五十日.....
除目.....

云
云
云
云

一品の宮(禎子)御參り.....
東宮の後朝御使.....
一品の宮の御惱.....
東宮の若宮(後冷泉)、御袴著の準備.....

云
云
云
云

若宮(章子)の御有様.....
一品の宮(禎子)、東宮(後朱雀)御參りの
玉の飾.....

云
云
云
云
云
云

一品の宮(禎子)の御方の御有様	二六	同 五大堂御修法の準備	二六
枇杷殿(妍子)御惱御祈り	二七	内大臣教通新邸移轉	二六
後一條帝・皇太后(妍子)・道長等の御有様	二七	皇太后御堂參籠	二六
枇杷殿御惱、御祈り數を盡し給ふ	二七	道長御堂百體釋迦佛供養の準備	二六
道長、十齋佛供養	二七	女院渡御	二六
右馬入道顯信病惱	二九	供養	二九
同 入寂	二九	女院、皇太后を案じ奉る	二九
同 高松殿(明子)の悲歎	二九	奈良の僧、維摩講を行ひ、皇太后の御惱	二九
同 賴宗・能信等叡山に赴き弔ふ	二九	を祈る	二九
枇杷殿の御物の怪	二九	魚味を食し給はず	二九
一品の宮(禎子)枇杷殿に退出し給ふ	二九	御湯殿まわり、落飾受戒	二九
道長病を冒し枇杷殿に参る	二九	皇太后崩御	二九
民部卿俊賢出家	二九	道長の悲歎	二九
道長、百體釋迦佛を法成寺に渡し奉る	二九	倫子の悲歎	二九
皇太后(妍子)の御惱により、道長枇杷殿に参る	二九	皇太后御葬送の日時を陰陽師に問ふ	二九
同 三四壇の御修法	二九	同 御入棺	二九
同 信長、枇杷殿より二條殿に退出	二九	同 葬送	二九
皇太后御惱六箇月を越ゆ	二九	女房の歌	二九

御茶毘………三七

御遺骨を木幡に葬る………元七

五大尊像を造り奉る………元七

一品の宮以下御服を奉る………元六

東宮の御使、日々一品の宮の許に参る………元六

五七日により五大尊百體不動尊の供養………元六

御法事のため阿彌陀三尊を造る………元九

命婦の乳母・辯の乳母贈答歌………元九

典侍・中將の乳母・五節の君等の歌………元九

鶴の林………

道長病惱、御祈りを辭す(萬壽四年)………三〇三

故皇太后御正日の法事………三〇四

女院(彰子)、道長の病を訪らひ給ふ………三〇四

五節………三〇五

一品の宮道長の病を訪ひ、枇杷殿に移り
給ふ………三〇五

源師房の室(尊子)道長の病を訪ふ………三〇六

中宮(威子)行啓………三〇六

女院・道長贈答歌………三〇七

七々日の御法事………三〇〇

和泉式部の歌………三〇〇

赤染衛門の歌………三〇〇

道長病惱益々重し………三〇〇

故皇太后御法事を御堂に行ふ………三〇一

女院・中宮・一品の宮・道長・賴通等の
御誦經………三〇一

典侍・辯の乳母の歌………三〇一

一品の宮御堂に御逗留………三〇一

道長阿彌陀堂に移る………三〇三

天皇・東宮行幸啓定まる………三〇七

行幸、道長の病を訪ひ給ふ………三〇八

請に依り、御堂造營行事を追賞し給
ふ………三〇九

御堂に封五百戸を寄せ給ふ………三〇九

女院の御方に渡らせ給ふ………三〇九

還幸、東宮行啓………三一〇

諸國の守以下御堂に集る………三一〇

倫子、道長の病床に侍す………	三二	道長の忌中經供養………	三三
院源、道長の病床にて說法………	三二	同 遺財處分………	三三
道長常に阿彌陀佛を念す………	三二	倫子の悲歎………	三三
如來の御手の絲をとる………	三三	賴通以下、念佛の非時誦經を獻ず………	三三
危篤………	三三	女院(彰子)、佛・經供養………	三四
天皇・東宮の御使………	三四	萬壽五年………	三四
薨去………	三五	女院・中宮・關白、御堂にあり………	三四
入棺………	三五	道長法事の準備………	三五
葬送………	三五	道長、生前に御堂の事を賴通に托す………	三五
尊師院源、呪願文を讀む………	三六	源師房の室御產………	三五
荼毘………	三八	道長四十九日の法事………	三五
遺骨を木幡に葬る………	三八	殿ばら・宮々御堂より還る………	三六
忠命内供の歌………	三八	道長少時より佛道を修行す………	三六
大納言行成薨去………	三九	行成四十九日の法事………	三六
上下これを惜しむ………	三〇	除目………	三六
公任・齊信贈答歌………	三〇	長家、倫子の邸に住む………	三七
中宮(威子)、道長往生の由夢に見給ふ………	三一	百體觀音を阿彌陀堂に安置………	三七
僧融碩の夢………	三一	賴通、道長の後事を墜さず………	三七

榮
花
物
語

三

松
村
博
司

